

「日本とトーランスの福祉」

金井 桃子



私は高校で、福祉を学んでいます。本来の目的である国際交流もそうですが、もう一つの私の目的は日本とトーランスの福祉の違いを学ぶことでした。私は学校で老人介護を始め社会福祉などさまざまな事を学んでいます。今の日本の福祉の現

状は、誰にとっても住みやすい環境にあるとは言えません？福祉やボランティアの意識がまだ低く、たくさん改善すべき点があります。

しかしトーランスの現状は違いました。お年寄りはすごく元気でした。早朝からランニングなど、すごいパワーでした。私はその元気の源はどこにあるのか不思議に思いました。トーランスでは、道路が広く、また車の渋滞もありません。公共施設には必ずスロープがあり福祉への意識の高さを感じました。人々が狭いところで暮らしている様子は少しもなく、みんながのびのびと暮らしていました。そして、緑が多いトーランスでは道の木や花などの手入れを、若者やお年寄りが朝からボランティアでしていました。トーランスの市民は福祉に必要な「思いやり」の精神はもちろんの事、「環境への配慮」もよく考えているために、最低限暮らしていく上、でストレスを感じる事が少ないのかなと思いました。ボランティア活動が盛んで、お金が支給されなくても市や人の為に少しでも活動しようとする、福祉の意識の高さに感心しました。トーランスの市民が健康で毎日を充実して過ごせる理由はここにあるのだと、思いました。

私は、トーランスで学んだ福祉の医療と心を忘れずに、これからの日本の福祉に役立てたいと思います。まだ、改善するべき点が日本にはたくさんあります。それを少しずつ変えていきたいと思いました。一人ひとりが笑顔で毎日 happy に暮らせる様な社会になればいいなと思いました。私がトーランスで学んだ事は、一生の宝です。かけがえのない友に会えたこともまた宝であり、たくさんの人に支えられ、交換留学生としてトーランスへ行けたことを誇りに思っています。毎日楽しく暮らすコツをトーランスで学んだような気がします。それは「挨拶・思いやり・笑顔」です。そして私の最後の言葉は「Thank you very much!」

このプログラムの参加者のみなさんへ心から「ありがとうございました。」